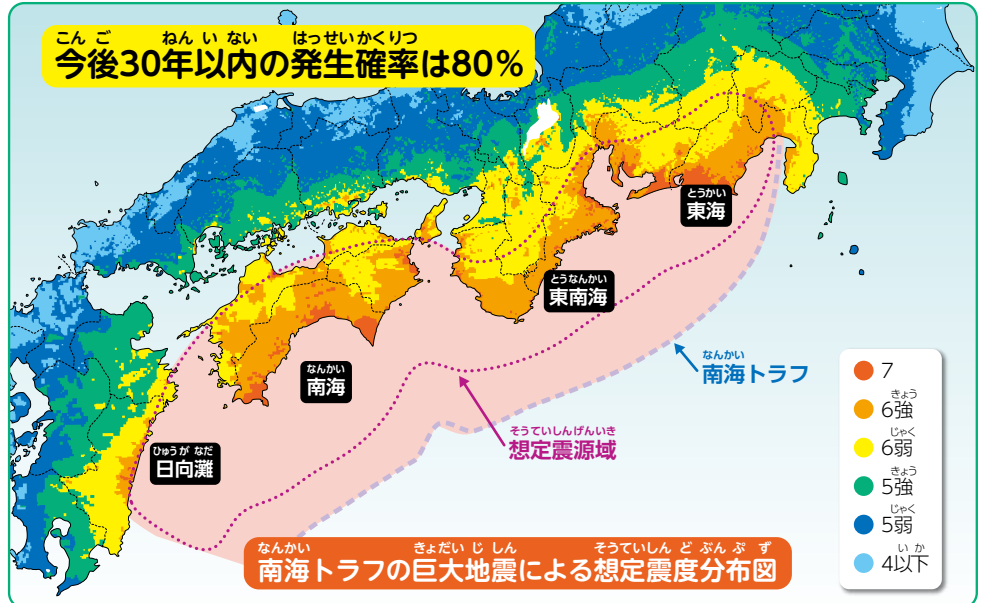


大府市はどうか？

大府市も南海トラフ巨大地震等により被害が発生すると考えられており、地震に備え被害想定をまとめています。

南海トラフ巨大地震が発生するおそれ

平成25年、地震調査研究推進本部では、南海トラフをこれまでのような南海・東南海という区分をせず、南海トラフ全体をひとつの範囲として考えました。令和6年1月1日を基準としたこの範囲での今後30年以内の発生確率を80%と予測しました。令和6年8月8日、日向灘を震源とするマグニチュード7.1の地震が発生し、気象庁から初めて南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）が発表されました。南海トラフ地震はいつ起きてもおかしくない状態にあり、備えが不可欠です。



（出典：内閣府資料）

南海トラフ巨大地震の被害想定（大府市 最大震度6強）

	ぜんかい 全壊	ししゃ 死者	ししゃ うちわけ 死者の内訳			
			しんすい つなみ 浸水・津波	たてものとうかいとう 建物倒壊等	かさい 火災	きゅうけいしゃちほうかいとう 急傾斜地崩壊等
おおぶし 大府市	やく むね 約1,200棟	やく にん 約40人	—	やく にん 約40人	ひがい 被害わずか	ひがい 被害わずか

資料：平成26年5月 愛知県防災会議地震部会 被害予測調査「過去地震最大モデル」

活断層について

大府市にも国土地理院が発表している活断層があります。一つが市内の西側を走る「大高一府断層」 もう一つが東側を走る「猿投一境川断層系」です。活断層による地震は発生する間隔が約4万年と言われていますが、いつ発生するかは誰もわかりません。

くわしい位置は国土地理院の活断層図をご確認ください。

国土地理院 活断層図について

https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/active_fault.html

